

令和5年三重県鳥羽市において 「移動電源車」「臨時災害放送局」「親子電波教室」の訓練等の実施

東海総合通信局（局長：北林 大昌）は、令和5年11月26日（日）、鳥羽市において「三重県・鳥羽市・伊勢市総合防災訓練」に参加し、以下の訓練及び訓練参加イベントを行いました。



災害対策用移動電源車の電源供給訓練

災害対策用移動電源車から日本放送協会所有の非常用送信車両(Eカー)に対して電源を供給する訓練を行うとともに、②臨時災害放送局の放送訓練実施に必要な電源を供給する訓練を行いました。

臨時災害放送局の開設訓練及び訓練放送

当局、鳥羽市職員及びJCBA久田会長との間で、口頭による臨時災害放送局の開設訓練を行った後、周波数79.5MHz、空中線電力20Wにて、午前9時から11時半まで実際に電波を発射して訓練放送を実施しました。

親子電波教室の開催及び訓練放送の受信

10人のお子さんには、FMラジオを作製してもらうことなどを通して電波についての理解を深めてもらいました。また、作製したラジオで②による訓練放送を聴いてもらうとともに、一部のお子さんには、インタビュー出演していただきました。

- 協力団体
- ・三重エフエム放送株式会社
 - ・一般社団法人日本コミュニティ放送協会（JCBA）東海地区協議会

[協力団体 三重県電波適正利用推進員協議会]

②の臨時災害放送局の訓練放送は、JCBAの協力によりインターネットでも配信を行い、良好に聴取できることを確認しました。訓練放送は、三重エフエム放送（株）及びJCBA選出の合計3名のパーソナリティにより進行され、鳥羽市内の学生らへインタビューやクイズ大会を交え、防災意識の向上に資する情報を発信しました。

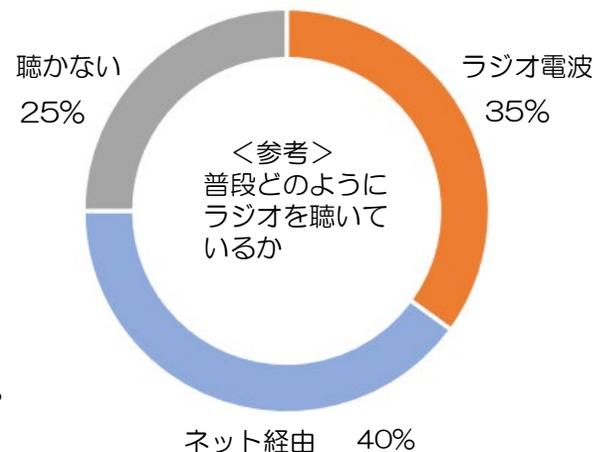
なお、鳥羽市長（中村 欣一郎氏）へのインタビューでは、被災時に車内にいる方への情報発信手段としてFM放送の活用を想定しているなど、臨時災害放送局への期待についてコメントをいただきました。

〈臨時災害放送局に係るアンケート結果〉

- 「臨時災害放送局」を知っている : 40%
- 災害時に備えてラジオを用意している : 80%
- 災害時に臨時災害放送局があると良い : 100%

（主なコメントの要旨）

- 視聴可能エリア内だったが、電波が弱かったため、ネットで聴取した。災害時は、ネット回線も不通になる可能性があり、臨時災害放送局の果たす役割は重要だが、送信出力のアップが必要と感じた。
- 津波などの災害があり得るのでこのような取組は良いと思う。



当局では、引き続き、地方公共団体主催の防災訓練に参加することにより、地域の方々に、東海総合通信局の防災・減災の取組について理解を深めていただくとともに、多様な情報伝達手段の確保に資する取組を行ってまいります。